



# 日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

97.10.23 No.4680

## 11・9へ総決起を

### 「日米新安保ガイドラインと有事立法に反対する百万人署名運動」の呼びかけ発せられる

いま全国で闘う各人士から、「日米新安保ガイドラインと有事立法に反対する百万人署名運動」(略称・百万人署名運動)の呼びかけが発せられた。

新ガイドライン情勢の煮詰まりと新たな侵略戦争の準備に、橋本内閣が大きく舵を切ろうとするなかで、こうした百万人署名運動の呼びかけが発せられ、六十年、七十年安保闘争を超える大運動をつくりあげていくことが訴えられたことは、画期的なことだ。

われわれは、この署名運動を全国津々浦々に展開し、多くの労働者・労働組合はもとより、いまの新ガイドライン情勢に危機感をもち、なんとかしなければと感じているすべての人々の署名運動への参加をつくりださなければならぬ。11・9集会への総決起・大結集をもちと、その力をバネに百万人運動を全国に広げよう。そのなかから第三次安保・沖繩闘争をつくりだそう。

#### 画期的な署名運動が始まる!

この署名運動の呼びかけ人には、大学教授、弁護士、ジャーナリスト、作家、労働運動出身者など、多くの人士が名を付けている。かつて社会党・総評プロックが健在のときには、こうした署名運動が「総評」の名のもとに展開され全国で取り組まれてきた。同時に署名運動を軸にしつつ、さまざまな大衆運動

#### 「日米新安保ガイドラインと有事立法に反対する百万人署名運動」(略称・百万人署名運動)の趣意書

平和を願い、アジア諸国民との信頼と友好を求める労働者・農民・市民・学生、すべてのみなさん。  
この願いをふみにじって、日米両国政府は、九月三日、「日米防衛協力指針(ガイドライン)」の見直し・最終報告」を強行策定し、そのうえで日本政府は、来年の通常国会に、新ガイドライン関連諸法案や有事立法を提出しようとしています。私たちは、日本がまたしても朝鮮や中国、アジアにたいする新たな侵略戦争準備に踏み出したのではないかと強い危機感をもっています。  
今の国会は主権者の意見が反映されにくい状況にあります。私たちは、日本政府のこうした新たな侵略戦争の準備をくい止めなければという気持ちから、ここに、「日米新安保ガイドラインと有事立法に反対する百万人署名運動」を呼びかけます。

も取り組まれてきた。ところが総評が解散し、社会党が社民党となり「与党」化していくなかで、こうした広範な取り組みがほとんどなくなり、地域・街頭からも消えつつある情勢のなかで、百万人署名運動がもつ意味は大きなものがあります。

「署名運動の趣意書」では、「私たちは、日本がまたしても朝鮮や中国、アジアにたいする新たな侵略戦争準備に踏み出したのではないかと強い危機感をもっています」と現状にたいする危機感と、「今の国会は主権者の意見が反映されにくい状況にあります。私たちは、日本政府のこうした新たな侵略戦争の準備をくい止めなければという気持ちから」署名運動を呼びかけています。さらに「今、この危険な動きを止めるために立ちあがらなければ、日本の労働者・学生・市民は再びアジアの民衆にたいして許しがたい加害者となり、また自らも大きな

被害を受けることになります。

国会や政党がいかにも民意とかけ離れた存在になろうとも、日本の労働者民衆の戦争に反対する意識は、今なお脈々と生き続けていると私たちは確信します。なによりも沖繩の闘いと共に、アジア民衆の闘いと共に、日本の新たな侵略戦争の動きにたいする激しい怒りの声と闘いが広がっています。今が歴史の分かれ目です。闘いはこれからです。

このように、署名運動をとおり、広範な労働者の決起が訴えられています。いま重要なのは、十一・九集会を広範かつ大量の労働者の結集の場とするところです。職場からの根こそぎの決起をかちとろう。

その力で署名運動の広範な展開を軸に、第三次安保・沖繩闘争へつくりあげる出発点としよう。十一・九集会へ総決起をかちとろう。